

橘町の見どころ

まちの歴史シリーズ ④⑤

橘町HP <https://tachibana-net.jp> [歴史・史跡](#) クリック

発行：橘町まちづくり推進協議会
ふるさと部会
発行日：令和8年3月1日
責任者：吉野 勝美
原稿作：宮下 正博
事務局：橘公民館 22-3884

今月号の案内者は

小野原区長 ^{くちょう} ^{のなか} ^{まさみ}
野中 政美さん



よう分らんバッテン

^{きんなり}
公業さんのこっちに

来んさってから

^{しおみ} ^す
潮見に住みんさったって

聞いたバッテン、あそこにや、神社のあ
ったろうもん？

そもそも潮見神社はいつ始まったと
かにや？ 公業さんが始めたと？

^{きんなり}
公業さんが橘にやってきた時の印象

はどんなだったとやろうか？

だいでん、知らん土地に行った時
は、不安になーて思うバッテン。



●公業さんが来た頃の潮見神社

●潮見神社の創建年ははっきりしていな
いけど、「悠久の昔^{★①}に潮見山の上に
『島見社』^{★②}が地元の民の手で祀られ
ていたとされているよ。

●それを示す記録はいろいろある^{★③}けど
ね。

●神社と公業さん、どっちが先？

●神社の始まりと公業さんが橘にや
ってくるのとは、区長さんの言う通り、
神社が先にあったよ。

●それを示す記録も色々ある^{★④}ヨ

●橘に来た時の印象^{★⑤}は？

●たぶん、こんな感じだったんじゃない
かってのを、AIさんに書いてもらったヨ

●主な登場人物



解説はタッパ君



橘公業（主人公）



AI自画像

★① 潮見神社の創建（はじまり）

1560年に潮見城が有馬氏によって陥落させ
られた時、神社や橘氏の館は燃えてしまっ
たと考えられているね。潮見神社が保管してい
た神社の文書類はその際にやけたらしいね。

★② 島見社

第34代神主の毛利龍一さんの説では、「奈良
朝の頃から島見郷の鎮守として、イザナギ・
イザナミ2尊を祀る『島見社』が潮見山の
頂上にあつた」と書かれているね。

元の名前が「島見」とあるのは、悠久の昔に
潮見山から杵島山の方を見ると、橘平野は海
で、杵島山は島だったからと言われているね。

★③④ いろいろな記録

専門的だから、興味ある人が読んでね

A) 感応院に現存する古文書に「弘法大師の建立(延暦・
大同の間=810~850)と言伝えられている。」と
書かれている

B) 毛利氏系図の始祖森国森の項に「貞観18年(876)
潮見大明神の神主たることを差許される」と書かれ
ている

C) 公業より神社が先にあった証拠記録

●潮見大明神の祭礼

建久6年(1197)乙卯9月朔日の書

●潮見大宮司に賜う書

承久2年(1220)正月20日、免田等のこと

承久2年(同)正月20日の書 など

以上の資料は中島信夫著「橘の歴史」を参考にしました



たぶん こうじゃなかったらどうか？ げきじょう 劇場 第2弾

今回も AI さんにたのんだヨ

34号で話したように、ワシは、秋田の兼任の乱^{注1)}でも戦い、味方にも疑われてしまった。

覚えておいてかな？

じゃから、何事にも慎重に準備せんといかんと悟ったんじゃ



公業一行は、来る途中も色々調べながら来た・・・ンじゃなかろうか？

(左注参照)



ワシは、こっちは古代の官道を通って来た^{注2)}んじゃが、到着する前に、北方の志久峠に達した時、見晴らしのいい場所から長島庄を観察したんじゃよ。

注①兼任の乱では、敵前逃亡したと疑われました。公業は頼朝に面会して「現地の味方が準備を整えずに戦ったので初戦は負けた。自分は準備を整えてから戦おうとした」と説明し納得させました。その後男鹿を知りました。

注②古代の官道は、今の多久から峠越をして北方の新橋を船で渡り鳴瀬山の熊野神社下を通っていました。ただ、公業たちは物資の搬送も多量だったはずで、船運を利用したとも考えられます。

注③古代の郡衙跡は、北方・鳴瀬・釈迦寺周辺と、各説があります。今回は北方説で描いてみました。

注④長島庄研究者服部英雄氏の説。

見下ろすと、眼下に田んぼが広がったが、東の方は葦が生い茂っておった。

田んぼの中に、郡衙(昔の役所)が見え^注、その奥には海も見えた。この絵のように田んぼは広くなかったがのう。

ここを下っていくと、葦原の向こうに山が見えた。「これが杵島山か!」と思ったんじゃ。杵島山には、昔から国がつくられた「国道」があったからのう。

この絵にはないが、西の方に小高い山が見えた。

ここに、島見郷の神社があると聞いていたので、郡衙から離れた所^{注④}に居を定めることにしたんじゃ。